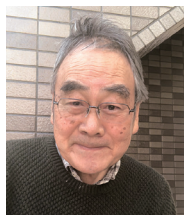


kei kan ma chi du ku ri tsu shun
 景観まちづくり通信

所在 千葉県浦安市



景観まちづくり委員会
 出堀 義夫

大学の建築史の先生から毎年、4回くらいの通信が送られてくる。いろんな建築にまつわる記事をA3縦の新聞のような形式でまとめてくれているのだが、不詳の弟子はろくに感想を送ったこともない。先号では高齢になったことを伝え、自分のことを建築史家と称してよいかとのが記されていた。十分にそのことは先生の業績で示しているのだけれど。

今年の見学会は郷土博物館の展示設計に係った会員の助言から、交通の便もあるのと歴史遺産がまとまっているから浦安にしようということが景観まちづくり委員会で企画された。今春のことである。

残された旧市街地に2つの歴史遺産が保存されている。この2つはよく紹介もされている商家の旧宇田川家住宅と漁家の旧大塚家住宅である。

浦安のまち歩き…

宇田川家(市指定有形文化財)は豪壮な商家の住居で浦安の以前の中心通りだったフラワー通りに軒がせり出している。一方、大塚家(県指定有形文化財)の方は公開時、排水と隣家の関係で少し移動し、敷地も450mmかさ上げされている。路地から入るのだが、以前の主要交通手段であった境川に接している。

以上の2つの歴史的遺産と並んでもう一つもっと評価されていい建物もある。診療所のある旧医院(旧濱田医院:昭和4年)の建物。

家の前面に小さな広場があり、大きな樹木が覆い、全体は見わたしにくいが見上げると端正な垂直性の優美な洋館が見える。土曜日とあって館内を拝見させていただいたが、寝室だったという2階への階段は見つけられなかった。低層棟の端の部屋は「堀江つどいの広場」として子育て広場として現在も利用されており、まちづくりの遺産の活用という視点からは重要なことだ。



旧宇田川家住宅とフラワー通り



旧大塚家住宅の土間天井

